



市では、九州大学大学院 農学研究院附属 昆虫科学・新産業創生研究センターと連携し、さまざまな取り組みを進めています。

昆虫をはじめとする身近な生きものと私たちの暮らしとの関わりを、九州大学の先生たちがわかりやすく説明します。

??



夏の訪れを知らせるセミ

この市報がみなさまのお手元に届くころには、夏の風物詩であるセミの鳴き声が、あちこちで聞こえていることでしょう。嘉麻市では、夏の始まりを最初に知らせてくれるのが「ニイニゼミ」です。その後、「クマゼミ」や「アブラゼミ」が鳴き始め、お盆を過ぎるころには、「ツクツクボウシ」が夏の終わりを感じさせてくれます。

ニイニゼミは周囲の明るさに敏感で、朝日が昇るとすぐに鳴き始め、夕方まで元気に鳴いています。また、公園など街灯のある場所では、夜に鳴いていることもあります。これに対してクマゼミは、早朝から盛んに鳴きますが、お昼前には静かになるセミです。さらに興味深いことに、クマゼミが日の出直後から騒々しく鳴き始めるのは7月末ごろだけで、7月中旬や8月中旬には、少し日が高くなってから鳴き始めます。

セミの種類によって、好む環境も異なります。クマゼミは人家の周辺でよく見られる一方、山あいではあまり見かけません。逆にニイニゼミは、市街地よりも郊外や山間部で多く鳴いています。さらに、郊外ではミンミンゼミやヒグラシ、山間部ではヒメハルゼミやエゾハルゼミなども見られます。どんなセミが鳴いているかに耳を傾けることで、その場所の自然環境を知ることができる



アブラゼミ



クマゼミ



ニイニゼミ

のです。これは、セミの幼虫や成虫が、それぞれ好む木や環境が異なるためです。

「セミの寿命は一週間」とよく言われますが、実際にはもっと長く生きることがあります。羽化したばかりのクマゼミの翅にマジックでマークをつけて調査したところ、最長で1か月後に再び見つかった記録があります。また、卵の期間は約1年、幼虫は土の中で4～6年も過ごします。こうして見ると、セミはカブトムシのように1年で一生を終える昆虫と比べても、意外と長い時間をかけて成長する昆虫なのです。



どこにセミがいるかわかりますか？



答えはここ！



研究者プロフィール
かみたに さとし
紙谷 聡志

専門は、ヨコバイ類の分類学・生態学。九州大学農学研究院に新設された昆虫DX研究室で、畜産害虫の画像認識・自動種同定や、生態系ネットワークの可視化などの研究を行っています。

